

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500591	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	株式会社 保健科学研究所			
事業所名	グループホーム さくら園			
所在地	(〒244-0845) 神奈川県横浜市栄区金井町1600			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年恒例の2大行事といえば、バーベキュー大会とクリスマス会です。この日はご家族様を始め、地域の方やボランティアの方でとても賑わいます。地域交流に力を入れ、2月には小学校の和太鼓クラブに訪問していただきます。みかん狩りやお祭り参加など、地域とのふれあいを大切に今後も益々交流を深めて行きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年1月25日	評価機関 評価決定日	平成23年3月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

＜事業所の優れている点＞
◇職員が話し合っ、ユニットの目標を、“笑顔で対応、明るい声掛け”などとして居間などに掲げ、全職員は目標の実践に努めている。例えば、職員は勤務の際、必ず利用者全員一人ひとりに笑顔で挨拶してから仕事に入るようにしている。
◇地元大家さんの力添えもあり、利用者は散歩のときには地域のひととの日常的な挨拶を交わしたり、農作物の差し入れがあったり、みかん狩りを実施させてもらったりしている。恒例の2大行事、クリスマスやバーベキューでは、家族の参加のほかに、大家さん、地元の方、子どもたちも応援してくれ、大変盛り上がったイベントとなり、利用者も大いに楽しんでいる。
◇運営推進会議に利用者の家族に参加を呼びかけており、毎回数名の家族の出席を得て、話し合いに応じてもらっている。結果として、利用者の家族の意向の把握の場となっている。
◇町内会とは、消防署立ち合いで、相互救済の非常時協力の覚書を取り交わしている。今後は夜間想定訓練などの協力して行う予定である
◇年間30回以上の行事食を計画し、利用者の希望なども聞きながら、多様性に富んだ食事提供を行い、利用者に喜んでもらっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着においては日頃より力を入れているところであり、着々と実績を上げている。今後も交流、活動を広げていく。	・法人で作成した理念を基本とし、さらにユニットごとに職員が「元気で明るく過ごす」目標を掲げ、会議で話し合っ実践している。 ・利用者が地域の中に溶け込んで生活を送れるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、毎日の散歩では地域住民の方に声掛けを頂くなど、だんだんと一員に近づいてきています。	・事業所が基本的に地域の中で密着した関係にあり、利用者は地域に受け入れられている。 ・事業所の行事に地域の人々が集まったり、地域の施設を事業所が利用させてもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2ヶ月1度毎に増やしたり、園の行事に招待して、認知症高齢者やグループホームについて理解を求める。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、行政、民生委員、ケアプラザの方に参加頂いている。前回は消防署にもご参加いただき、回を重ねるたびに内容が濃くなってきている。	・運営推進会議は2ヶ月ごとに実施し、数名の利用者の家族も参加して、事業所の様子を細かく話し合っている。 ・会議のテーマについて事前に行政側とも相談している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域の方のみならず、行政とも密な関係が維持できている。この度はケアプラザの認知症サポーターのセミナーに職員が参加する。	・事業所は、生活保護者の入所について、行政側としばしば話し合っ、課題解決に協力している。 ・運営推進会議への、行政職員の積極参加をお願いして、効果をあげている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を守るという意味で、ユニットの出入口と浴室(不使用時)は施錠しているが、身体拘束はしていない。	・職員は身体拘束について、入社時研修を受けていて、事業所では原則的に身体拘束は行われていない。 ・玄関は施錠していないが、ユニットの出入れ口は安全上施錠している。	・利用者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除くケアの実践のために、安全とリスクの観点から、身体拘束について話し合ってみてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてのチェックリストを使った勉強会にて理解を深めた。これまで通り、身体的虐待は行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が学ぶ機会はないが、各自で取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に説明を十分に行っている。特に、退居関係の事項には補足説明の文章を添えることで、食い違いを未然に防いでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を2ヶ月に1度実施し、意見交換を行い質の向上に努めている。	・運営推進会議に利用者家族の参加を求めている。 ・訪問する家族には積極的に声掛けするようにしている。 ・家族の要望を聞いて、利用者の室内レクリエーションや塗り絵を増やしたりしている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の管理者会議にリーダーも出席し、職員の意見等も反映されている。	・毎月開催されるユニット会議に、職員は自由に議題を提出できるようにリーダーが、事前に議題を集めている。 ・職員の話し合いの結果、入浴の順番、散歩のグループ分けなどについて、改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を把握し、健康診断も定期的に行い心身の健康を保つ努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議時、勉強会を定期的実施している。その都度報告書を提出している。外部研修を受ける機会も徐々に増えてきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列4ヶ所の管理者会議において、月に1度活動報告及び困難事例検討等を行いお互いの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困っていることを理解し、安心して生活できることを第一に関わりを持ち信頼関係を深め、自然な形で情報収集が出来るよう努める。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族の不安なこと、困ったこと、要望されていることの応えられる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員で話し合い、『その時』に必要な支援を出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野(食器拭き、食材刻み、掃除、洗濯干し、たたみ等)での活動に参加していただき、職員と共に過ごし支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を第一に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、キーパーソン、家族の考えも考慮し、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の馴染みの人や場の情報について、入所後職員との関係が密になるにつれて聞き出し、サービスのポイントにしている。 ・入所後、利用者が家にいた状況を探り、整理たんすを持ち込み、利用者が落ち着いた例がある。 	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が悪くならないように注意を払い、些細なことでも申し送り、テーブルの位置等話し合い孤立させない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、次の施設への移動に必要な情報を提供している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時のアセスメントをもとに、ケアプランを作成している。家族の要望を聞き、本人の希望や意向を取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者本人はどう思っているか」の視点で、職員間で情報交換し共有している。 ・相性のいい職員を担当にして、本人の思いを聞き出している。 ・三味線の名取だった利用者が、三味線への愛着が強いことがわかって部屋に飾った例がある。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の記録や家族からの情報により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録をよく読み、状態を把握するように努めている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ユニット会議などで全体の意見を反映できるように情報収集し、ケアプランを作成している。	・ユニット会議の中でカンファランスを開き、モニター結果を話し合っ、ケアプランを見直している。 ・ケアプランの内容については医師や訪問看護師の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯にて日誌に個別に記録し日々の様子や状態も申し送りやユニット会議で情報を共有し、実践や介護計画見直しに反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理美容等と連携し、柔軟なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と密接な交流が図れるように努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回の往診があり、希望に沿った医療体制を取っている。	・協力医として西横浜国際病院、港南台病院などと契約し、月2回の往診を受け、休日、夜間の緊急往診も受入れ可としている。歯科医も毎月往診している。 ・かかりつけ医は本人、家族などと話し合っ、現在は全て協力医に替わっている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護があり、日頃何か気づいたことがあれば記録しておき、その都度相談し、指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り合い、相談することで関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。現在までにターミナルケアの実績はない。	・利用者には入居時の説明で、当施設の医療連携加算に係わる説明の中でターミナルケア指針を説明し、了解を得ている。利用者の中で終末ケア希望者はいるが、今はその状況には無い。	・提携医療機関と訪問看護師の協力を得て、ターミナルケアを受入れられる準備は進んでいますが、職員の研修を実施してターミナルケアの実現を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法については図表にして職員の見やすいところに表示してある。実践力は全ての職員が状態ではない。特に夜勤帯は1人の為、訓練などで実践力を身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	・栄区消防署を立会人とした町内会/さくら園との消防応援相互協力に関する覚書があり、避難訓練などでも協力を受けている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬と思いやりを気持ちを持ちながら対応している。	・プライバシーポリシーに関してPマークを取得し、法人として力を入れている。介護上の利用者の羞恥心などに係わる事象は職員同士、ミーティングなどで注意し合い、気をつけ合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望に添えるように小さなことでも納得した上で行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況の応じて出来る限り本人のペースを尊重し希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えを選ぶとき自己決定出来ない方以外は本人と一緒に選んでいただけるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事制限のある方には代替品にて別に調理をするなど、切り方や食べやすさにも配慮している。又、可能な範囲で野菜切り、食器拭きを職員と一緒にやっている。	・日常生活での茶碗、箸、湯飲みなどは全て、利用者の馴染みのものを家庭から持ってきてもらっている。 ・行事食や誕生月の特別食などは、本人の希望を入れ、お寿司、パンメニューなどを提供している。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度記録している。特別に変化のある方は申し送り、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で行える方には声かけをし、介助の必要ない方は支援している。義歯洗浄、消毒は1週間に2度行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、トイレでの排泄ができるように支援している。	・入院などで自立ができなくなった利用者でも、退院後、排泄リズム把握による支援で、原状復帰した例もある。夜間も声掛けにより、可能な人は自立してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事、水分摂取、医師の指示により服薬などを行うことによって自然に排便ができるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は決まった時間の入浴になっている。週2回以上入浴できるように援助している。	・季節には柚子湯、菖蒲湯などで、また、希望の入浴剤なども入れて、利用者に入浴を楽しんでもらっている。介護者と一対一で親密な話もでき、一緒に歌を歌ったりして、安らいだときを過ごしている。	

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態、状況に合わせて休息を取り入れる。又、安定した睡眠が取れるように家族、医師、本人とも相談しながらその時々に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を個々の介護日誌に綴じている。薬の内容、種類、副作用について理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	広告紙を使ってのごみ箱作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除等、個々に合わせて支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出掛けられるよう努めている。又、季節に合わせて外出企画を実施している。	・散歩は毎日、ユニット毎、3～5組に分け順番に、職員同伴で20分～30分事業所の周りを歩いている。年に3～4回はドライブで遠距離に出掛けている。羽田空港、東京タワーは好評であった。	・散歩支援ボランティアを導入できれば、利用者の散歩を一層充実できる可能性があるものと期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の所持はなく、本人が使える機会は少ない。トラブル防止の為、入居時の説明で家族、本人の理解を得ている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出があれば電話をすることは可能である。手紙のやり取りも希望に添えられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁面には写真や飾り付け、各行事企画の写真の展示をし、季節感を味わっていただいている。	・日当たりのよい食事用テーブルのあるリビングには、座卓、ソファを配した和室部分もあり、利用者は、好きな場所でパズルをしたり、テレビを見ながら、ゆったりとした時間を楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一応席は決まっているが、リビングでお茶、食事等利用者同士の関係性も配慮しながら過ごせる居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物、使い慣れたものを持ってきていただき、今までの生活と変わりなく暮らせるように支援している。	・毎日午後、利用者と職員は協力して各居室のモップがけを行い、清潔を保っている。馴染みのベットなどは個人持込みだが、床にマットを敷き、布団を毎日上げ下ろし、生活する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、自立した生活が送れるようになっている。又、洗面所には個別に名前を入れた洗面用具一式を置き、いつでも使えるように支援している。		

事業所名	グループホーム さくら園
ユニット名	うぐいす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	11月に身体拘束の資料を読みスタッフ全員アンケート調査を実施した。身体拘束はしていない。危険性のない限り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	11月に虐待防止の資料配布をし、スタッフ全員が学ぶ機会を持てた。虐待に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員が制度の理解と活用はできていない。入居者それぞれの経歴を理解するように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明を十分に行っている。特に退居関係、改定の際は説明の文章を添えることで食い違いを未然に防いでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期ごとに運営推進会議を設けて、少しでもよい方向に反映させている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本年度は念に6回の運営推進会議を設けている。ユニット会議を毎月行って意見交換や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って、働けるよう、職場の環境や役割の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後、研修を受ける機会の確保。毎月、系列ホームより講師を招いて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム、小規模多機能間で、毎月1回管理者、リーダーが集まり報告や問題点について話し合う機会を持っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談にて、本人や家族の要望や安心の確保に努めている。事前の情報収集にて状況を把握している。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にホーム内の見学や説明を十分に行い、面接にて要望等に耳を傾け、信頼関係作りをしている。入居者様の様子を毎月写真と文章のお便りにし、送っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めて、できる限りの支援をしている。職員にて話し合いながら、臨機応変な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同士の関係を築いている日常生活の中に取り組みされている。食事、トイレ、入浴、散歩、レクリエーション等、自立した生活を送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活や近況状況を毎月家族へお便りとして送っている。面会時等、関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限りの支援を行っている。行きつけの美容院などへ連れて行ってもらう。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう性格を見極めながら、席の配置や散歩のメンバーの組み合わせを考えて、見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も情報を提供したり、相談がある場合には支援に努めている。その後の施設を訪れたりしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り本人の意思に添える様努力しているが、全員のバランスをとるのが難しい。意思疎通の困難な方は、表情等を見ながら対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限りコミュニケーションを図り、過去の記録等を読み、状況を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで利用者様の観察に努めている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を定期的に行き、日常の記録や情報を元にスタッフ間でアイデアを出し、担当者が計画作成をしている。その際、家族や本人の意見を反映させるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践を個別に記入し、スタッフで共有しながら介護の計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況によりニーズの変化に柔軟なサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を取り巻く環境は大変よく、人も自然も豊かなすばらしい所だと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診にて適切な医療を受けている。希望により、他医院への受診あり。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、情報や気づきを記録して、その都度相談している。処置の指示等受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い、医師との面談をしている。得られた情報は退院時に即、対応できるように職員に伝える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合本人、家族と話し合いを行っている。現在までターミナルケアの実績はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	9月に救急救命士により訓練を行う。すべての職員ができる状態ではない。特に夜勤帯は1人の為、実践力を身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。本年度はスプリンクラーの設置を行った。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声かけを心がけている。入浴、排泄等、介助時のプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表現できるよう、声かけに努めている。表現しやすい環境を作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のスタッフの出勤具合や行事により、散歩や入浴ができない場合には説明して理解を得られるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、更衣、外出時の身だしなみ等、本人が決定できるよう、手助けしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、盛り付けや音楽を流すなどの工夫をしている。可能な範囲で片付け等、お手伝いしていただいている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって食事の量を調節し、食事量、水分量を記録している。必要な支援をその都度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は本人にやっ ていただいている。本人のペースで対応している。洗剤を使用した消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限り自力でトイレでの排泄ができるよう支援している。パターン表を活用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分、食事の工夫。医師の指示により服薬もあるが、できるかぎり自然排泄に努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴ができてい る。季節感が出せるよう工夫している。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や状況に応じて、温度、湿度の調整を図り、気持ちよく眠れる環境を整えている。日中の適度な運動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に内容、種類、副作用について理解するよう努め、様子変化の記録も欠かさず行っている。薬剤師との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、掃除等、植物の水やりなど個々にあった役割を支援している。誕生日や会や行事を毎月行い、散歩も毎日の日課となっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	悪天候以外は毎日散歩している。家族の協力にて外出を行っている。お花見や紅葉見物など、季節ごとの外出を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使える機会は少ない。トラブル防止の為所持しない方針であることに理解していただいている。		

グループホーム さくら園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望により電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りカレンダーを作成している。季節ごとの飾り付けや、花を生けている。入居者様の手作り作品の展示等、心和む様、不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室ソファにて1人でくつろいでいただいたり、リビングの席もその都度過ごしやすいように変化させて、自由に行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、使い慣れたものや好みの物を持参して、居心地良く過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前があり、トイレ表示は大きく見やすくしている。声かけやできる事等、楽しく過ごしていただけるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくら園

作成日 平成 23年 3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	職員が権利擁護についての理解を深められる様、学ぶ機会を持ちたい。	勉強会や、研修への積極的な参加。	7月以降にケアプラザにご協力頂き、勉強会を予定している。	12ヶ月
2	33	提携医療機関と訪問看護の協力を得て、ターミナルケアを受け入れる準備は進んでいるが、実績はない。	職員の技術向上に向けた研修と、ご家族様との具体的な話し合い。	運営推進会議の年間予定に議題として設定。23年度の第6回目にご家族様と会議を行う予定。	12ヶ月
3					
4					
5					